

(ANCA 関連腎炎における腎間質病理所見と短期治療効果および長期予後に関する検討) に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年2月24日～2027年3月31日

〔研究課題〕

ANCA 関連腎炎における腎間質炎症細胞浸潤病変と短期治療効果および長期予後に関する検討

〔研究目的〕

ANCA 関連腎炎は、自己抗体 ANCA に関連する血管炎の臓器障害として発症します。高齢者に多く、腎および生命予後が悪い疾患です。また、治療に使用される免疫抑制薬自体も生命予後悪化に関連するため、治療継続の判断において ANCA 関連腎炎の予後予測は重要です。従来 of 予後予測因子に加え、今回、特に腎生検組織所見における腎間質炎症細胞浸潤病変が治療後の予後予測に関係する可能性を検討することとしました。

〔研究意義〕

腎間質炎症細胞浸潤病変と短期治療効果や長期予後との関係を明らかにできれば、従来 of 長期予後予測に加え腎生検時の腎間質炎症細胞浸潤病変に基づき、各 ANCA 関連腎炎患者における治療開始早期での免疫抑制療法の強度や期間調整の判断に役立つと考えられます。

〔対象・研究方法〕

2008年1月から2022年10月の間に ANCA 関連腎炎の診断を受け、入院加療された患者さまが対象となります。調査項目は、年齢・性別・臨床症状・検査データ・治療方法・経過などです。また、腎生検で採取した腎組織の検査も行います。調査終了は2027年3月末日です。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 内科

〔個人情報の取り扱い〕

調査項目・検体はすべて既存のものであり、データ上すべての患者さまは個人が特定されない形に加工され、名前・住所・電話番号などプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切なく、何らかの負担が生じることもありません。また一人ひとりの病気の状況を発信することもありません。解析後のデータは安全にかつ完全に破棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：藤垣嘉秀 教授

研究分担者：柴田茂 教授、 田村好古 准教授、 山崎修 准教授

所属： 内科学講座

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-2111 (代表) [内線 7388]